

地域における教育実地研究の実践  
—志摩市片田中学校区を中心とした9年間の実践—

中西良文  
松浦均  
南学  
松本金矢  
根津知佳子

三重大学共通教育センター  
大学教育研究—三重大学授業研究交流誌—  
第 22 号 別 冊  
2 0 1 4 年 発 行

## 地域における教育実地研究の実践

### —志摩市片田中学校校区を中心とした9年間の実践—

中西 良文・松浦 均・南 学・松本 金矢・根津 知佳子

(三重大学教育学部)

#### The practical application of teacher training in a community: Nine years practical application at Katada school district in Shima City

NAKANISHI Yoshifumi, MATSUURA Hitoshi, MINAMI Manabu, MATSUMOTO Kinya & NEZU Chikako

#### 要旨

本稿は、2004年度から2012年度の9年間にわたり、志摩市立片田中学校の学校区を中心に行われてきた（2005年度および2006年度においては立神小学校において、2012年度は和具幼稚園においても実施）学校教育／人間発達実地研究 III または IV、ならびに、教育実地研究についてまとめたものである。そこからは、この教育実地研究の実践を行うにあたり様々な人が多層的に関わり、その関係の中で本実践が成り立っていたのではないかと考察された。

#### はじめに

われわれは2004年度から2012年度の9年間にわたり、志摩市立片田中学校の学校区において、学生主体型授業実践を行う、「学校教育実地研究 III（または IV<sup>a</sup>）」「人間発達実地研究 III（または IV<sup>a</sup>）」「教育実地研究」を行ってきた（以降、本実地研究と称する。なお、2005年度および2006年度については、立神小学校においても実践を行っている。また、2012年度は片田幼稚園の統合に伴い、和具幼稚園で実践を行っている）。2013年度末をもって、志摩市立片田中学校が近隣の中学校と統合し、新たに志摩中学校となることを機に、本実地研究は同じく志摩市内にある大王中学校区において継続していくこととなったが、ここでは、これまでの実践についてまとめ、成果を確認するとともに、今後の展望について考えていく。

#### これまでの実践の概要と詳細

本実地研究の目的：現実の教育場面における現実の教育業務についての体験的学習を通して、机上の学習だけでは獲得されにくい実践力を養うことが本実地研究の目的の中心となるものである。学生は、学生開発授業案による研究授業を実践し（2時間）、その教育的成果、ならびに学生自身の自己成長について考察する。その意味で、本実地研究は、PBL(Problem/ Project-based Learning)であるといえるが、本

実地研究のテーマとして「子どものコミュニケーション力を高める」ことが期待された。

概要:主に教育学部の2~4年生を対象とし、9月第1週もしくは第2週に、3泊4日(2005年度までは2泊3日;表1参照)のスケジュールで現地の学校園に入り、2時間分の授業実践を行うとともに、教師の仕事の見習いを行う。また、2時間分の授業実践のための授業案作成を5月のオリエンテーションの時期から進める。さらに9月末に行われる合同運動会に、有志で参加する。

参加者:これまでの参加者数一覧は表1の通りである。ここから学校教育コースならびに人間発達科学コース(2005年度入学生までは、人間発達科学課程)のカリキュラムならびに、教員養成カリキュラムに応じて、参加者数に増減があることが分かる。特に、2005年度入学の人間発達科学課程の学生までは、1学年定員が約20名であり(2006年度入学以降の人間発達科学コースの学生は1学年定員が約10名となっている)、かつ、卒業要件として4単位分(1科目2単位)の実地研究科目の単位取得が必要であったため(2006年度入学生以降は2単位必修)、2005年度入学生が在籍している期間までの受講生数が多くなっている。また、学校教育コースならびに人間発達科学コースカリキュラム上、他の実地研究科目が開講されなかった場合も、受講者が多くなっている。

さて、本実地研究では、授業案作成の補助を行うチューターも初年度を除き参加している。このチューターは基本

<sup>a</sup> IIIまたはIVの番号については、学校教育コースならびに人間発達科学コースの毎年のカリキュラム運営に応じて、いずれかの番号があてられてきた。

表1 9年間の実践における参加者数一覧

年度	実践校・園(註)	参加者総数	受講生数	チューター数	教員数	日数	備考
2004	片田幼・小・中	24	21	0	3	2泊3日	
2005	片田幼・小・中・立神小	42	34	4	4	2泊3日	立神小学校においても実施
2006	片田幼・小・中・立神小	41	32	6	3	3泊4日	立神小学校においても実施
2007	片田幼・小・中	28	24	(4)+1※	3	3泊4日	※4名のチューターは受講生としても参加
2008	片田幼・小・中	30	22	4	4	3泊4日	
2009	片田幼・小・中	24	16	3	5	3泊4日	
2010	片田幼・小・中	36	26	5※	5	3泊4日	※学部生のチューターが3名参加
2011	片田幼・小・中	28	19※	4	5	3泊4日	※卒業生である他大学研究科大学院生が1名参加
2012	片田小・中・和具幼	27	18※	4	5	3泊4日	※卒業生である他大学研究科大学院生が1名参加

(註)片田幼:片田幼稚園 片田小:片田小学校 片田中:片田中学校 立神小:立神小学校 和具幼:和具幼稚園

的には教育学研究科の大学院生が行っている。なお、年度によって、チューター自身が現地で授業者として参加することや学部生がチューターを担うことがあった。

現地の実習までの活動の詳細:まず、例年5月に授業ガイダンスを行い、履修を考えている学生対象に本実地研究についての説明を行う。そして、その説明を基に履修意志の確認を行う。履修を決定した学生に対しては、ガイダンスが行われた翌週以降、毎週決まった曜日のお昼休みにミーティングを行う。ミーティングでは、まず、各学校の学年担当<sup>b)</sup>学生とチューターが決められる。担当の学生は、各学年で2人以上になるように調整をしている。その後、各学年担当学生同士で協議を行いながら授業案作成を進めていく。そこでは、本実地研究のテーマである「子どものコミュニケーション力を高める」というものに沿った授業が実践できるよう、教員からの簡単な講義・授業が行われるとともに、関連する文献なども参考にしながら、授業案作成が進められていく。そして、前期の終了時に、授業案中間発表会があり、そこでは各学年の担当学生が現状の授業案を発表し、それに対するコメントが教員・チューターからなされる。

その後、夏休みの間は、学生とチューターで授業案作成を継続して進めていき、8月末に行われる授業案最終検討会に向けて準備を進めていく。なお、ガイダンス以降、授業における連絡にはコースマネジメントシステムの1つである moodle<sup>c)</sup> が用いられているが、8月中の授業案作成のやりとりは、主に

この moodle における掲示板機能を使って行われる。

授業案最終検討会では、各学年の担当学生が授業案を発表する。それについて、教員・チューターが協議を行い、実践可能な授業案となるよう、修正の方向を検討する。そして、チューターの指導の下、各学年担当の学生が修正を行い、最終授業案を完成させる。最終授業案については、印刷がなされ、冊子として完成させた後、現地の実践校に郵送する。

また、最終授業案に従い、必要物品を用意するとともに、教材の作成を行う。

現地での実習の詳細:まず、初日については、朝大学を出発し、昼頃現地に到着する。到着後、各学校の予定に合わせて、子どもとの対面を行い、その後各担当クラスに入る。初日においては各クラスの担任教員と協議を行い、授業実践の日程を決定する。また、クラスによっては実践予定の授業案について、クラスの様子にあった授業となるよう指導助言をいただく場合がある。各学校園での活動終了後は宿舎に戻り、宿舎では検討会が行われる。初日の検討会では、実践の予定日時を確認するとともに、担任教員からの指導助言をいただいた場合には、それを紹介し全体で共有する。検討会の後には、チューターと教員が協議を行うチューターミーティングが行われ、初日には、各学生の授業実践における参観者を決めるとともに、授業案や授業実践において、最終的な修正が必要な箇所について協議を行う。なお、学生は検討会終了後、翌日以降の授業実践の準備(授業案の再検討、教材準備、模擬授業の実施など)を行うことがほとんどである。

2日目以降は、学生が実施する授業実践が始まる。各授業実践については、可能な限り必ず教員もしくはチューターが参観するようにし、ビデオによる実践記録も行われる。2日目以降の検討会では、当日に授業実践を行った学生からの報告を受けるとともに、参観した教員からのコメントが行われる。また、

<sup>b)</sup> 実践校においては各学年1クラスであったため、それぞれの学年担当の学生は、1クラスの担当となっている。

<sup>c)</sup> 三重大学において用いられている moodle については、以下の文献に詳しい。

奥村晴彦・下村勉・秋山實・須曾野仁志・杉浦徳宏・中島英博 2006

三重大学における Moodle 活用の現状と課題 情報処理学会研究報告 第2回 CMS 研究会 23-28.

検討会後のチューターミーティングでは、当日実践された学生の授業についてのさらなる検討を行うとともに、翌日以降に授業実践が残っている場合には、そこでの軌道修正等についても検討を行う。学生は検討会終了後、初日同様、翌日以降の授業実践の準備を行うが、最終日前日には、子どものお別れ会のための準備を行うグループもある。最終日にも授業実践が行われるが、最後にお別れ会が行われることも多く、年度によっては学校単位で行われることもある。お別れ会の後、現地の学校園を離れ、大学に戻り、準備物の片付けをするとともに、検討会が行われ、当日の授業実践ならびに、現地での実習全体を通した振り返りが行われる。

なお、現地での実習期間中に一度、各学校園の先生をお招きし、懇親会（バーベキュー）を行うが、その場は、学生が各学校園の先生よりクラスや子どもに関する詳細な情報を教えてもらう場となっていた。

現地での実習後の詳細: 現地での実習が終了後、レポート課題が出され、それについて学生はレポートを作成し提出する。また、有志の学生は、9月末に行われる運動会に参加する。この運動会は、片田幼稚園・片田小学校・片田中学校の合同運動会であり、実習を行った全ての子どもが集まる場である。そこで学生は、運動会の準備等を通して、学校での教師の仕事の多様さについて学ぶとともに、地域に根ざして学校が運営されていることを実感する場となった。

### 本実地研究の振り返り

学生によって実践された授業: 9年間の実践において行われた授業の一覧は表2の通りである。重複するものを除き9年間で87の授業が実践されている。

また、それぞれの授業がどのように分類できるかという観点から、学年ごとにどのような授業が行われたかをまとめたものが表3である。ここからは、学年段階が低いところでは、共同制作を取り入れた、いわゆる「手を動かして」行う授業が多く行われたのに対し、学年段階が高くなるにつれ、社会的クリティカルシンキングやエンカウンター、SSTといった「考えること」を中心的に取り扱った内容が増えていることが分かる。

なお、これらの授業案は印刷した上で冊子体にされ、現地の先生に配布されたが、これらの授業案が現地の先生自身の実践に活用されているという声を耳にすることもあった。

参加した学生の声: 実地研究での実践が、参加した学生にどのような影響を与えたか、学生の感想から検討を行う。参加した学生の声として、まず、授業案作りをはじめる段階では、「初めての活動に不安があった」「グループの人とうまくコミュニケーションがとれないことがある」など、授業案作りには不安を抱えている様子があったと考えられる。その後、授業案作りを進め、実際に現場に立った後、「実際に子どもと関わって子ども観が変わった（子どもは思った以上にコミュニケーション力がある!）」「これまで練ってきた授業案ではうまく行かないところがあった」といった感想が出てきている。このことから、事前に現場との関わりがないところで持っていた子ども観・授業観が、現実の授業場面に立つことで見直しを迫られたということが窺える。そして、「子どもと接するコツをつかんだので今後活かしたい」「教師になりたい気持ちが強くなった」というように、そこでの活動を自らの将来につなげようという意識を持つことにもつながったと考えられる。このように、多くの学生が初めて現場に出る体験の中で、最初は不安を抱えながら授業案を完成させ、それを現場で実践することで現実の教育場面を知ることとなり、最終的にはそこでの体験を将来に活かしていこうと考えるに至る様相があったと考えられる。

本実地研究を基とした研究活動: 本実地研究での実践は、研究活動にもつながっている。まず、実地研究での実践を基にまとめられた卒業論文・修士論文としては、前者は1本、後者は2本存在する。また、学会発表や論文として、外に向けても発表され、特に論文としては以下の通りまとめられている。

伊藤由恵・中西良文・根津知佳子・松本金矢 2008 教育学部学生が実地研究において学生開発型授業を実践することの効果 - ポートフォリオ分析を中心とした学生の変化に注目して - 大学教育研究-三重大学授業研究交流誌- 16, 27-31.

根津知佳子・前原裕樹・松本金矢・中西良文 2009 学生開発型のものづくり授業実践における「対話」の研究: 授業案作成から実践に至るまで寄り添うチューターの視点から 三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 29, 39-45.

前原裕樹・松浦均 2012 教育実地研究における学生の授業作成および実践に伴う困難さとその克服過程に関する研究: 学生へのインタビュー調査を手がかりに 三重大学教育学部研究紀要 63, 275-285.

中西 良文・松浦 均・南 学・松本 金矢・根津 知佳子

表29年間にわたる授業の一覧

年度	学校	学年	担当者	タイトル	概要	分類	備考	
2004	片田小	年長	1	人2×2	海に行ったら・・・	共同絵画	共同制作	
			2	人2・学M3	みんなで森を作ろう	共同絵画	共同制作	
			3	人2・人4	海の中	共同絵画	共同制作	
			4	人2×2	未来の絵を描こう	共同絵画	共同制作	
			5	学4・学M2	さわやかな自己表現	アサーション	SST	
			6	人4・人4	〃	〃	〃	〃
			1	人3・学4	いろいろなもの見え方・見方	リフレーミング	社会的クリシン	
			2	人2・人4	〃	〃	〃	〃
			3	人4×2・学M3	〃	〃	〃	〃
			2005	片田小	年長	1	人2×2・人4	海をつくろう
2	人2×2	友達を知ろう				インタビュー	エンカウンター	
3	人2×2	〃				〃	〃	〃
4	人2×2	手で森を描こう				共同絵画	共同制作	
5	人4・音4×2	みんなのリズムを感じて♪				共同表現	共同活動	
6	学2・人2	あなたの友達はどんな人？				インタビュー	エンカウンター	
1	学2・人4	表情を表現する				表情表出	SST	
2	人2・人3	名前(ニックネーム)を考えよう				ニックネームをつける	エンカウンター	
3	人2・人4	表情で気持ちを伝え合おう				表情表出	SST	
4	人2・人4	〃				〃	〃	〃
5	人2・人4	お互いのよいところを伝え合おう				ポジティブフィードバック	エンカウンター	
6	人4×2	適切な自己表現のためのトレーニング				アサーション	SST	
1	人2×2	聞き上手を目指そう！！				上手な聞き方	SST	
2	人2×2	こんな人生最高！！				最高の人生を考える	エンカウンター	
3	人3・人4	気持ちよく想いを伝えよう				アサーション	SST	
2006	片田小	年長	1	人2・人4	海の中	共同絵画	共同制作	
			2	人2×2	みんなで自分たちの木を描こう	共同絵画	共同制作	
			3	人2×2	共同絵画	共同制作		
			4	人2×2	いろいろな宇宙人を想像して	共同絵画	共同制作	
			5	学2・人2	みんなで一つの星を作ろう！	共同絵画	共同制作	
			6	人2×2	ことばで伝え合って絵を描こう	伝言による絵画作成	共同制作	
			1	人2・人4	トーンチャイムスポーツと	共同表現	共同活動	
			2	人4・音M2	鍵盤ハーモニカアンサンブル	〃	〃	
			3	人4・音4	オリジナル『トムとジェリーの効果音』	共同表現	共同活動	
			4	人3・音M2	をつけよう♪	〃	〃	
			5	人2・音4	自分メカネとみんなメカネ	共同表現	共同活動	
			6	人2・音4	～音と言葉のコミュニケーションを	〃	〃	
			1	人2・人4	もの見方の転換	リフレーミング	社会的クリシン	
			2	人2・人4	もの見方の転換	リフレーミング	社会的クリシン	
			3	人2×2	もの見方の転換	リフレーミング	社会的クリシン	中1～中3で 別プログラム
2007	片田小	年長	1	人4×2・学M1	先生に「ありがとう」の	共同工作	共同制作	
			2	学4・人4	プレゼントをつくろう	共同絵画	共同制作	
			3	人4・音M2	みんなでかくと、なにがうまれる？	フロアアート	共同活動	
			4	人2・人4・音M1	世界にひとつだけの木をつくろう！	共同工作	共同制作	
			5	人2・人4	夏らしい出でるくまをつくろう	共同工作	共同制作	
			6	情3・人4・音M1	気持ちを伝えよう	表情表出	SST	
			1	人4・音M2	リズムの重なりを作ろう	共同演奏	共同活動	
			2	人4・学M2	自分のもの見方をふりかえろう	リフレーミング	社会的クリシン	
			3	人4・学M1	広げよう、深めよう！	リフレーミング	社会的クリシン	
			4	人4×3	YOUの見方、MEの見方	〃	〃	
2008	片田小	年長	1	人2・日2	海の友達をつくろう！	共同絵画	共同制作	
			2	日2×2	「紅色の水族館」	共同絵画	共同制作	
			3	日2×2	～片田小1年生の世界に	共同絵画	共同制作	
			4	日2×2	一つだけしかない虹～	共同絵画	共同制作	
			5	2×2※・音M1	みんなで片田小2年生思い出の	音作り・ダンス作り	共同活動	
			6	日2×2	ダンスをつくろう	共同工作	共同制作	
			1	人2×2※・学4	水ケケットを飛ばそう！！	共同工作	共同制作	※内一名は留学生
			2	人2・技4	みんなの方を合わせて	共同工作	共同制作	※テーマとして 明記されていない
			3	人2・技4	ソーラーバルーンを飛ばそう！	共同工作	共同制作	
			4	人2・技4	高いところから風船を落とすも	共同工作	共同制作	
2009	片田小	年長	1	学M1・音M2	割れないようにするには※	共同工作	共同制作	
			2	人2・情4	ポスターの隠れている部分を	共同工作	共同制作	
			3	人2・情4	発見しよう	共同工作	共同制作	
			4	学M1・音M2	さまざまな見方で考えてみよう	共同工作	共同制作	
			5	人2・日2	視点の切り替えて、	共同工作	共同制作	
			6	人2・日2	違う捉え方を考えてみよう	共同工作	共同制作	
			1	人2×2	超きもちい～い質問を考えよう&	共同工作	共同制作	
			2	人2×2	自分を見つめなおしてみよう♪	共同工作	共同制作	
			3	人2×2	みんなで協力してパズルを完成させよう！	共同工作	共同制作	
			4	人2×2	みんなで協力してパズルを完成させよう！	共同工作	共同制作	
2010	片田小	年長	1	学2・人2	わたしたちのお話を作ろう！	共同工作	共同制作	
			2	人2・技2	みんなで協力してかいたいしやを作ろう	共同工作	共同制作	
			3	人2・技2	それぞれの色を組み合わせ	共同工作	共同制作	
			4	人2・技2	火花を描こう	共同絵画	共同制作	
			5	人2・技2	同じ物事に対して	共同絵画	共同制作	
			6	人2・技2	さまざまな考え方があつて	共同絵画	共同制作	
			1	日2・技4	説明する力を養おう	プレゼンテーション	SST	
			2	人2・技4	人を、その人が満足できる結果に	アサーション	SST	
			3	人2・技4	導くことができる意見の言い方を学ぼう	アサーション	SST	
			4	学2・人2	みんなで協力して思い出の家を作ろう！	共同工作	共同制作	
2011	片田小	年長	1	学2・人2	ジグソーパズルを完成させよう！	共同工作	共同制作	
			2	学2・技2	うみのなかまを作ろう！！	共同絵画	共同制作	
			3	学2・人2・技2	花束を作ろう！	共同絵画	共同制作	
			4	学2×2・人2	きび団子を作ろう	共同工作	共同制作	
			5	学2×2	～仲間をつなぐきび団子～	共同調理	共同制作	
			6	学2×2	志摩の島を開発しよう。	共同調理	共同制作	
			1	学2×2・人2	見方の違ういろいろな物語を作ろう	共同絵画	共同制作	
			2	人2×2・技2	自分に対して	共同絵画	共同制作	
			3	人2・技2×2	肯定的な見方をするきっかけづくり	リフレーミング	社会的クリシン	
			4	人2・技2×2	自分の意見を	リフレーミング	社会的クリシン	
2012	片田小	年長	1	学2・人2	気持ちよく相手に伝えることを考えよう	アサーション	SST	
			2	人2・技2×2	非言語コミュニケーションとしての	アサーション	SST	
			3	人2・技2×2	表情の重要性を知り、また、	アサーション	SST	
			4	人2・技2×2	表情を福福慮案に	アサーション	SST	
			5	人2・技2×2	表出することができるようになる。	アサーション	SST	
			6	学2・人2	協力してキーキを作ろう！	共同工作	共同制作	
			1	学2×2	海の絵を描こう	共同絵画	共同制作	
			2	学2×2	カラフル絵！	共同絵画	共同制作	
			3	人2・学M1	まちをつづろ	共同工作	共同制作	
			4	人2×2	良いところを探そう！	リフレーミング	社会的クリシン	
5	人2×2	一獲千点！ドッジボール	共同競技	共同活動				
6	外部院生D2※	インタビューのツボ	インタビュー	エンカウンター	※チューターも 担当・卒業生			
1	社2×2	思い描いた未来像を	自分の未来像を考える	エンカウンター				
2	技2・生資2	表情が会話の内容にもたらす	表情表出	SST				
3	技2・社2	影響について考えてみよう。	質問ゲーム	SST				
4	人2×2	ルールを増やし、遊びを発展させて、	共同遊び	共同活動				
5	人2・技2※	仲間ともに遊びを楽しもう。	共同遊び	共同活動				
6	人2・技2※	紅色で描こう(クレヨンクラッチ)	共同絵画	共同制作	※小2と同じ担当者。			
1	人2・技2※	身の周りのものを使って	共同工作	共同制作	人衆の学生が正統業者			
2	人2・技2※	タマゴ型の乗り物を作ろう	共同工作	共同制作	※小1と同じ担当者			
3	人2・情2	話し合いでの協力をするために	共同絵画	共同制作	技術の学生が正統業者			
4	学2・外部院生D3	～新種の魚を描こう～	共同絵画	共同制作				
5	情2×2	サマーパーティーアサイン	共同表現	共同活動				
6	情2×2	～夏休みを、もう一度～	共同表現	共同活動				
1	社2×2	コミュニケーションについて考えてみよう	非言語コミュニケーション	SST				
2	学2・人2	ご当地キャラクターを知ろう！	共同問題解決	共同活動				
3	学2・人2	言葉の見方・捉え方	考え方の違いに気づく	社会的クリシン				
4	人2×2	自己理解を深めよう	他者から見た自分に気づく	エンカウンター				
5	学2×2	他者の価値観や考え方に触れよう	考え方の違いに気づく	社会的クリシン				

(注)学校間の表記は表1に従う。担当者の表記は以下の通りである。学:学校教育コース、学M:学校教育専修(修士課程)、人:人間発達科学課程(2005年度入学生まで)、人間発達科学コース(2006年度入学生以降)、音:音楽教育コース、音M:音楽教育専修(修士課程)、技:技術教育コース、日:日本語教育コース、情:情報教育コース、社:社会教育コース、生資:生物資源学部

表3 9年間の学年ごとの各活動分類数

学年	共同制作	共同活動	SST	分類		
				エンカウンター	社会的クリシン	その他
幼稚園	7	1				
小1	9			1		
小2	7	3				
小3	7	1		1		
小4	4	2	2	1	1	
小5	3	2	4			
小6		2	2	3	3	
中1			2	1	5	1
中2			3	2	4	
中3			3	1	5	

註：小学校については、2校実施の分、数が多くなっている

さらに、本実地研究に関わって、学内 GP ならびに科研費といった研究費を得ている。

このように、本実地研究は実践活動をベースにした多くの研究にもつながっており、学術的にも大きな寄与があったと考えられる。

現地の学校・教育委員会による協力：本実地研究を進めていくにあたっては、実践を行った片田中学校区の学校園（ならびに立神小学校・和具幼稚園）および志摩市教育委員会による多大なるサポートがあった。具体的には、まず、現地の学校では、学生による2時間の授業実施のために、授業編成を構成していただいたことや教室に学生が入り教育活動に関わらせていただけるよう、多大なる環境整備と準備をいただいた。小中学校では、学校に最初に入るときならびに最後の帰校時に全校で集会を開いていただき、学校全体として実地研究を受け入れているという態勢を作っていただいた。また、現地での活動前には、授業案作成にかかわり情報提供や準備物等に関わる児童・生徒への連絡なども行っていただいた。さらに現地での活動の後には、有志の学生による運動会への参加を受け入れていただき、学生にとっては学校での教育活動の様々な側面を知るとともに、地域と学校とのつながりについても知る機会となった。

志摩市教育委員会には、現地の学校における、この事業の実施を受け入れていただき、さらには期間中に指導主事が授業を参観し、学生に対する指導助言をいただいた。また、現地での宿泊に関して、宿泊費減免補助の支援をいただくとともに、宿舎と現地の学校との交通に関して、バスの借り上げに係る支援をいただいた。

### まとめと今後の展望

本稿では、志摩市立片田中学校区における9年間の実地研究の実践についてまとめた。ここから、この実地研究という1つの授業を行うにあたり、様々な人が多層的に関わり、その関係の中で実践が成り立っていたことが分かる。今後は新たな学校区に場所を移し、実践が行われていくことになるが、これまでの活動で得た蓄積を活かしつつ、より発展していけるように活動の改善を模索し続けていく必要があると考えられる。

### 【付記】

本稿で取り上げた実践を行うにあたって、多大なるご協力をいただいた片田幼稚園・片田小学校・片田中学校・立神小学校・和具幼稚園の教員のみならず、ならびに園児・児童・生徒のみなさまに感謝申し上げます。とりわけ、各学校園の歴代の園長・学校長には、園・学校全体での受け入れを進めていただき、感謝の言葉が尽きません。また、志摩市教育委員会のみなさまにも多側面でのサポートをいただき、大変に感謝いたしております。

最後に本実地研究を始めるにあたっては、西川和夫先生（現：田中教育研究所）、そして故廣岡秀一先生の多大なるご尽力があったことをここに書き添えます。